

平成27年度 ふれあいトーク記録票

とき:11月 8日(日) 10:00~ 11:30 会場:荒川地区公民館 大ホール 参加人数: 41人

開催地区名	NO	発言内容	答弁内容
荒川	1	(1) 合併して8年が経過するが、合併について地区住民はどのように考えているのか、今後どのような方向に向かって進んでいくべきかなど、アンケート等の手法で合併についての検証を行った方がよいと思うが、どう考えますか。	(1)合併の検証は、何らかのカチでしなければならないと考えている。しかし、平成20年4月1日に選択した合併は、絶対に間違いなかったと考えているので、「良かったですか」「悪かったですか」と言った内容の振り返りは必要ないとする。 ・地域審議会やまちづくり協議会の活動に参加するなど、すでに市民一人ひとりが参画を始めている現状から、それらの活動を振り返りながら先を見ていくことが大切と考える。 ・合併をしたことで、過疎債を使う事が出来るようになり、村上市の財政が安定してくるという効果があった。
		(2) 坂町病院は新発田病院の補完病院となっているが、補完病院としての機能が整っていないと思う。坂町病院はこの地域にとって大切な病院である。地域に根ざした自立した病院づくりを進めてもらいたい、どのように考えるか。	(2)下越の医療圏だけでなく県全体で医師不足となっています。県では医師の養成を行っており、その研修医を当地域に来て貰うよう県へのフォローアップをしていきたいと考えています。 ・安心して子どもを産める場所がなければ、2人目、3人目という事にはならないと思うので、そのへんの取り組みもしっかりと進めていきたいと考えています。現在、坂町病院内に病児・病後児保育施設の整備を進めているが、その際、産科のスペースの活用をいただいたが、他の目的で使うという事は、自ら産科の科目を放棄してしまうことになるので、それは出来ない旨の話をさせていただきました。どんなにハードルが高くとも、子育て環境の整備という面からも、坂町病院の産科復活に向けた取り組みを続けていきたいと考えています。
荒川	2	(1)魅力ある 企業を誘致しなければ若者の定住はないと思います。	(1)就職する人一人ひとりの考え方があるので、全ての人が大手企業を目指しているわけでもない。一人ひとりのニーズに応えられる環境整備が必要だと考える。ただ、大きな枠組みで、企業がここにあり、しっかりと経営が成り立っていることが経済基盤の安定にも繋がっていくので、企業誘致はしっかりと取り組みたいと考えています。
		(2) 少子化対策は、他市町村よりも魅力のある施策をとらないといけない、よそから人が来て子どもを産み育てることにはならないと思います。他市町村の施策を参考にこの村上市に相応しい少子化対策を行って貰いたい。	(2)現在ある企業の環境整備として、企業内保育への取り組みをする企業に対し、行政として支援出来る事については支援していきたいと考えています。
		(3)岩船沖の洋上風力発電事業の事業化のプロセスが分からない。市民に投げかけ議論したほうがよかったのではと考える。	(3)洋上風力発電については、民間企業が地元との合意形成の中で進めたいというスタンスで今動いています。村上市議会としては、いろいろな人から意見を聞きながら、洋上風力発電を推進するという立場の決議を、議会としての判断で行ったところ。行政側としては、村上市にとって経済効果をもたらすものという視点から、地元の合意形成があれば進めていきたいと考えており、一番影響を受ける人達が推進する意志を持っているので、これを進めていくのが方向性だと考える。
		(4)議会の開催中、1日でもいいので、仕事をしている人も傍聴できるようにしてもらいたい。	(4)土日、夜間の開催については、以前より議会側でも考えている事でもありますので、今回の荒川地区でのふれあいトークで土日開催の意見があったことを議長に伝えておきます。
		(5)支所にある程度の権限を委譲してもらいたい。	(5)支所であろうが本庁であろうが、村上市役所であることには変わりないので、そこで完結すべきであると考えます。実際にそういうことが有るようであれば、現地を確認しながら改善策をとっていきたいと考えています。
		(6)選挙の際に掲げた5つの公約について、各年毎に進捗状況を、そして4年後に総括を市民に報告して貰いたい。	(6)公約については、これから策定する第2次総合計画にも盛り込みさせてもらっていますので、PDCAのサイクルで、私自身しっかりと振り返りをしていきたいと考えています。

開催地区名	NO	発言内容	答弁内容
荒川	3	(1)支所の職員の人数を増やしてもらえないでしょうか。絶対数が少ないと思う。	(1)職員の総体の数については、個別にそれぞれの所管でみると、ギリギリ足りているところ、全然足りていないところ、余裕が有るとまでは言わないが、その分活動が出来ているところがあるので、今後そのへんのところを整理し、全体的な枠組みの中で検討していきたいと考えます。
荒川	4	(1)市役所の職場環境が、若い人の発想や意見を受入れ育てる環境になっていないと思う。 (2)人を含め地域を知るためにも、新採用の職員を支所に配置して欲しい。	(1)、(2)組織の中で「報・連・相」を含めコミュニケーションを取っていくことが大切と考える。職員の資質の問題については、職員だろうが臨時職員だろうが一緒のことだと思います。それぞれが、この村上市をどういう方向性であるべきかをポジション、ポジションでしっかり考え行動するように指示していきたいと思います。
荒川	5	(1)首長がいくら立派なビジョンを立てようが、それに定めてくれる職員がいるかどうか問題だと思います。 (2)職員の資質を高める教育を行って貰いたい。	(1)、(2)自分の能力を100%発揮して行動できることで、充実もするし能力も発揮出来るのだと思います。そこにまで到達しようとする意識付けが必要であり、職員のモチベーションを上げる仕組みづくりはやっていきたいと思います。
		(3)交流人口の増加を図るためにも、海外からの旅行者の受け入れ体制の整備が必要と考える。そのためにも、観光協会等から具体的な計画を立てさせ行動してもらおうようにすべきではないか。	(3)インバウンド観光については、村上市はまだまだである。村上市は持っているものは豊かだであるので、サインなどの受け入れ体制の整備やSNSを活用してのいろいろな情報が発信できる仕組み作りなどを進めています。また、行政だけでなく民間などの知恵をもった人達と連携して進めていければ良いと思います。
		(4)結果に対する検証が必要だと考える。	(4)今回の企業誘致は、企業側の求めに対し、それを用意出来なかったことが村上市の敗因です。このことは、教訓としてしっかりと受け止めたいと思います。
荒川	6	(1)文化協会は、生涯学習として事業費の3割を補助として支援してもらっている。しかし、旧町村時代と比較すると大幅に減少しており財政面で大変苦慮している。地域で行っているささやかな文化活動ですが、その活動を掘り起こし育てる文化行政という視点で、もう少し支援していただけないものかと思えます。	(1)文化に親しみを感じながら生きていくことは大切なことだと思うし、文化協会さんの取り組みなどはまさにそれで、今後も進めていっていただきたいと考えます。運営そのものについては、様々な方法があると思うのでしっかりと検証させていただきたいと思えます。合併して一つとなった村上市の文化協会の在り方などの検討も行っていただきながら、それぞれの地区にある文化を伝承していただきたいと考えます。
荒川	7	(1)文科省より小規模校の統廃合についての指針が示されたが、それについて村上市としてどのように考えていますかと、統廃合を行う場合、地元住民の意向を確認するのかわるか。 (2)近隣の市町村では、18歳までの医療費助成などが行われているが、村上市の計画はどのようなになっているのですか。 (3)高齢者世帯への見守り体制の充実とあるが、具体的にはどのようなことか。	(1)統廃合については、地域住民の方にお知らせをしながら進めるべきことと考えています。村上市では現在、学校の在り方検討会に諮問していますので、今後答申される予定になっていますが、一刻も早く子供達がより良い環境の中で教育が受けられるようにしていきたいと考えています。 (2)村上市でも18歳までの医療費助成は、実施しております。 (3)高齢者の見守り体制の充実は非常に重要だと考えています。先般、郵便局と防災協定を結びましたし、今後、いろいろなものを活用しながら体制整備を進めていきたいと考えています。
荒川	8	(1)40才から50才の方は、マンモグラフィだけでは充分ではないので、ダブルで検診できるようにしていただきたい。	(1)担当課との詰めはしていませんが、私自身検討しています。どんな受診方法がいいのかなども含め検討し、具体的に形になるよう進めていきたいと考えています。